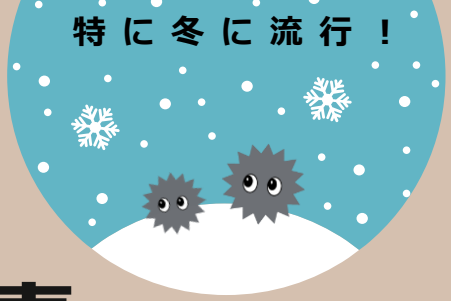
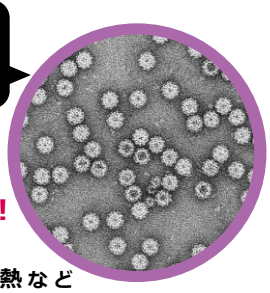
あなたの手でノロウイルスを広げないために

予防しよう！ ノロウイルス食中毒



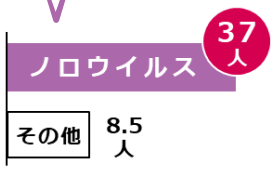
ノロウイルスは感染力が強い！



10～100個の少量で感染！

症状：嘔吐，下痢，発熱など
発症時間：24～48時間

1件あたりの患者数が多い！



食中毒1件あたり平均患者数

冬にしぶとく生き残る！



寒さ・乾燥に強い

＼食中毒予防 4つの原則／

❶調理場に持ち込まない

体調不良のとき調理しない



感染して治ったあとも油断しない



1ヶ月ウイルスが排出されることもある…！

❷ひろげない

トイレの洗浄・消毒



嘔吐物の適切な処理



次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が効果的！

❸加熱する

中心温度
85～90℃で
90秒以上
加熱する！



しっかり加熱してやっつけよう！

❹つけない

正しい手洗い



使い捨て手袋を着用する



調理器具の洗浄・消毒



実は…アルコール消毒はノロウイルスに効きにくい

岡山県・食品衛生協会

ノロウイルス！かんたんQ＆A

Q１ 食中毒はどのようにして起こる？

調理着でトイレに入るのはNG！

食品
汚染された食品



環境
トイレ等での二次汚染



感染
感染するとノロウイルスが便やおう吐物の中に排出される

しんどい



感染しても症状が出ない人がいる！

元気

症状がなくても
ノロウイルスを排出する！



調理
汚染された手で調理すると…



提供



食中毒発生

Q２ 正しく手洗いする方法は？

まず流水で手を洗ってから、石けんをつける



ペーパータオルを使用

洗い残しに気を付けよう！



●洗い残し多い部分

タオルは共用しない

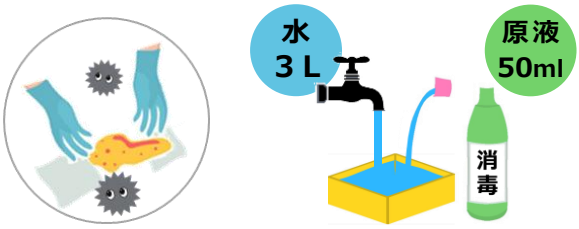


二次汚染のもと！

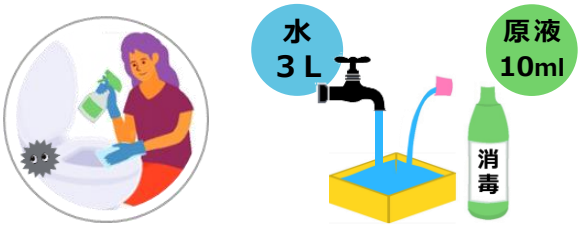
Q３ 次亜塩素酸ナトリウム消毒液の作り方は？

原液濃度6％の場合

便･おう吐物が付いた場所の消毒
（0.1％消毒液）



トイレ・ドアノブ・食器等の消毒
（0.02％消毒液）



使用上の注意点

・汚れが残っていると効果が弱まるため、汚れを取りのぞいてから消毒しよう！
・効果が弱まるため、作り置きしない
・金属類はサビやすいため、消毒後は水拭きしよう！

岡山県生活衛生課の【公式】インスタグラムはこちら

岡山県・食品衛生協会

汚染物処理の手順

※次亜塩素酸ナトリウムは他の洗剤と混ぜると危険な場合があります。
特に酸性の強い洗剤と混ぜると有毒ガスが発生しますので注意してください。

あらかじめ用意するもの

- 使い捨て手袋・エプロン・帽子・マスク・靴カバーなど
- ペーパータオル、ビニール袋、ビニールシート、きれいな雑巾、塩素系漂白剤、ペットボトルなど
- 消毒液（1,000～5,000ppm 次亜塩素酸ナトリウム）を作製する。

●塩素系漂白剤を用いた次亜塩素酸ナトリウム希釈液のつくり方〔次亜塩素酸濃度6%の場合〕

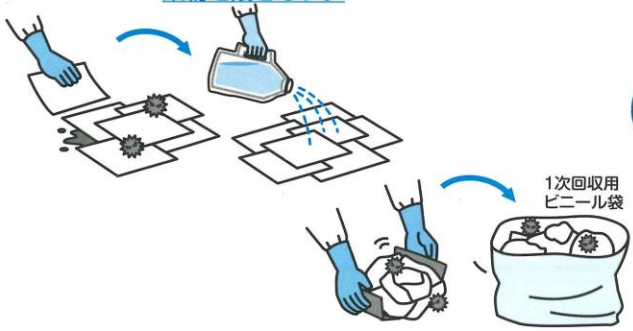
ペットボトルのキャップには約5ml 入ります。
キャップを利用し塩素系漂白剤（6%の塩素を含む）をペットボトル（500ml）に入れ、水でボトルをほぼいっぱいにすると、次亜塩素酸ナトリウム希釈液（消毒液）をつくることができます。

ペットボトルの水（500ml）に対し塩素漂白剤の量	→ 次亜塩素酸ナトリウム希釈液
キャップの半分 ＝約 2.5 ml	→ 300ppm（200 倍希釈）
キャップの 1 杯分 ＝約 5 ml	→ 600ppm（100 倍希釈）
キャップの 2 杯分 ＝約 10 ml	→ 1,200ppm（50 倍希釈）

手順 1 汚染物周囲から、ヒトを遠ざける。

手順 2 使い捨て手袋※・エプロン・帽子・マスク、靴カバーを着用する。※手袋は２枚重ねる。窓があれば、開放する。

手順 3 １次回収用ビニール袋の口を開け、消毒液を少量入れておく。ペーパータオルで汚染物をおおい消毒液をかける。厚紙を用いて周囲から汚染物を包み込むように、ぬぐい取り、１次回収用ビニール袋に廃棄する。可能なかぎり、床に汚染物を残さない。



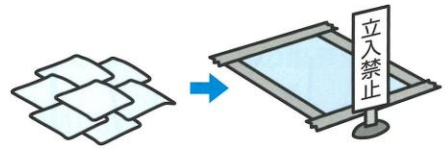
手順 4 次に作業の際に汚染物の付着した外側の手袋をはずして同様に廃棄し、１次回収用ビニール袋の口をしっかり結び、２次回収用ビニール袋に入れる。



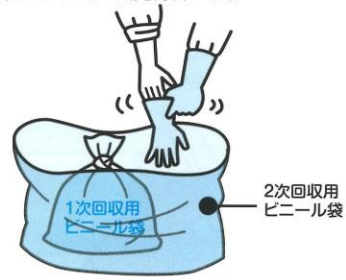
手順 5 汚染物を取り除いたあとをペーパータオルでおおい、消毒液を注いで 10 分間放置後に取り除く。次にさらに広めにペーパータオルでおおい、消毒液を注いで 30 分後に取り除き、２次回収用ビニール袋に入れる。



手順 6 汚染物の中心から半径約 2m を汚染区域と設定し、消毒液を浸したきれいなペーパータオルでおおう。その上に廃棄用ビニールシートをおおい、周囲をシールする。汚染区域の立ち入りを制限し、一夜放置する。



手順 7 エプロン・手袋等の防護装備を外して、２次回収用ビニール袋に入れる。２次回収用ビニール袋の封をして、可燃ごみとして廃棄する。



手順 8 洗剤・流水による手洗い、うがいを行う。セットの物品を補充する。



翌　日

手順 1 使い捨て手袋を着用し、放置したペーパータオル等を集めてビニール袋に入れて廃棄する。制限区域を解除する。

手順 2 洗剤・流水による手洗い、うがいを行う。

ノロウイルス汚染への対処法・基本的な考え方

① 汚染物を極力取り除き、ウイルスの量を減らすことを考える
② 熱を加えることができるものに対しては、加熱することを考える
③ 消毒剤を使用し、残ったウイルスを不活化することを考える

©公益社団法人日本食品衛生協会